

# ドキュメンタリー映画特集 未来を生きる 「こども」たちへ



## A うまれる



泣くために、愛するために。  
9/19(月) 14:20～上映終了後  
日本助産師会 静岡県支部 番内和枝さんによる講演

「赤ちゃんは親を選んで生まれてくる」という子どもの胎内記憶をモチーフに、妊娠から出産、そして出産と隣り合わせにある不妊や流産・死産といった命のドラマをめぐるドキュメンタリー。ウェブサイトで応募した約200組のなかから選ばれた4組の家族を追ひ、生まれてくることの意味や家族のあり方、人とのつながりについて考えていく。私生活で良き父親として知られるタレントのつるの剛士がナレーションを担当している。

©2010「うまれる」パートナーズLLP

監督・企画・撮影：豪田トモ／出演者：大葉ナナコ、池川明、鮫島浩二、岡井崇、見尾保幸、吉村正 ほか／ナレーション：つるの剛士／2010／日本／104分／配給：マジックアワー

【番内和枝】  
富士宮市出身、昭和55年3月助産師免許取得。東京都教職員互助会立「三楽病院（総合病院）」勤務。日本家族計画協会「思春期クリニック」勤務。横須賀市「聖ヨゼフ病院（総合病院）」勤務。平成6年5月 富士宮市に「エス・アール・ハウス（助産院）」開業。現在に至る。妊娠、出産、育児のお手伝いをする傍ら、思春期の健康相談、性教育講演で全国を回る。富士宮市の「ババママ学級講師」、富士市立看護学校、沼津市立看護学校、中部看護学校の非常勤講師も勤める。

## B 森聞き



山の世界って 宇宙人だな  
9/18(日) 14:20～上映終了後  
柴田昌平監督 舞台挨拶

「何か、今、世界が変わる時期に来ている気がする…」そう高校生がつぶやいた。100人の高校生が、100人の「森の名人」を訪ねる試みが続けられている。山の暮らしの知恵や技、人生を聞き書きするためだ。綱一本で大木に登る76歳のおじいちゃん、10歳から焼き畑を続けてきた85歳のおばあちゃん。そんな暮らしが日本にあることすら想像していなかった高校生たちは、年老いた名人の言葉に揺さぶられ、新たなものの見方や未来を学んでいく。

©2010 プロダクション・エイシア

監督：柴田昌平／2010／日本／125分／配給：プロダクション・エイシア  
©2010年度日本映画ペンクラブ文化映画部門第3位 ©2011年児童福祉文化賞受賞  
©オウル国際青少年映画祭正式招待作品

【柴田昌平】  
東京都出身。NHK、民族文化映像研究所を経て、現在は映像制作会社プロダクション・エイシア代表。NHKスペシャル「世界里山紀行～フィンランド・森・妖精との対話」（独・ワールドメディアフェスティバル銀賞受賞）、NHKスペシャル「新シルクロード第1集・楼蘭4千年の眠り」（米・エミー賞ノミネート）など、数々の優れたドキュメンタリーTV番組を制作する一方、映画製作にも進出。初監督作品「ひめゆり」(07)は、文化庁映画賞大賞受賞／キネマ旬報ベストテン〈文化映画部門〉第1位など8冠に輝く。

こどもや親子の関係をテーマとした映画は、毎年多く生み出されています。そして今年の秋、静岡シネ・ギャラリーでも本年度アカデミー賞とゴールデングローブ賞において最優秀外国語映画賞に輝いた『未来を生きる君たちへ』を始めとして、世界各国のこどもや親子をテーマとした質の高い劇映画を立て続けに上映いたします。そこで、昨年5月に上映した『風のかたち』の伊勢監督最新作「大丈夫。一小児科医・細谷亮太のコトバー」を始めとして、近年日本で製作されたこどもや親子に関するドキュメンタリーを特集しました。

## C さあ のはらへいこう —青空自主保育の三年間—



子どもには「子どもの力」がある  
9/17(土) 14:20～上映終了後  
桐野直子監督 × 相川明子さん トークショー

神奈川県鎌倉市で1985年から野外での自主保育を続けている「なかよし会」。この会は今、全国的に注目されつつある「青空自主保育」の草分け的存在で、専任保育者である相川明子さんと共に谷戸と呼ばれる里山を拠点に、野山や海で遊ぶ保育グループだ。保育の基本は、手出し口出しをせず、そっと見守ること。子どもたちは、1歳から3歳までの3年間を自然の中で過ごす。自然の中で分かち合い、助け合う中で育んできたつながり…子どもたちはケンカが起こっても自分たちの力で解決していく。

©2010-2011 kirokusha All Rights Reserved.

監督・脚本・編集：桐野直子／語り：平野文／出演：相川明子 ほか／2011／日本／116分／製作・配給：記録社

【桐野直子】  
東京都出身。早稲田大学卒業後北京留学を経て、映像制作プロダクションに入社。その後フリーの映像ディレクターとして、報道、ドキュメンタリー番組等の制作に携わる。1998年、記録社を設立。主な監督作品『戦争を教えてください』『東京大空襲』『未来への伝言』『ひなたぼっこ』等

【相川明子】  
フリーライター、産休代替保育者を経て、1985年に青空自主保育なかよし会を創設。現在、青空自主保育なかよし会専任保育者。鎌倉中央公園で保全活動をするNPO法人山崎・谷戸の会理事長。昨年度は富士常葉大学講師を務めた。著書に『土の子育て』『土の匂いの子』（共にコムンス刊）等がある。

## D 月あかりの下で —ある定時制高校の記憶—



学校は生きる希望をくれた場所  
9/18(日) 18:35～上映終了後  
太田直子監督 舞台挨拶

高校の非常勤講師というキャリアをもつ太田直子がメガホンを取り、埼玉県立浦和商业高校定時制クラスを舞台に、2002年の入学から2006年の卒業までの4年間に密着する。派手な身なりで教師に暴言を吐く生徒、家庭内暴力が原因で登校できなくなった生徒、自傷行為を繰り返す生徒など、家庭や社会生活の中で問題を抱えている若者たちが、担任をはじめとする教職員との心のふれあい、クラスの仲間たちとのぶつかりあい、支えあいの中で育っていく様子を入学から卒業、そして‘その後’を追う。

©2011 by Group Gendai

監督・編集・撮影：太田直子／出演：埼玉県立浦和商业高校定時制課程 卒業生 ほか／2010／日本／115分／配給：グループ現代  
©平成22年度文化庁映画賞 文化記録映画優秀賞受賞  
©2010年度日本映画ペンクラブ文化映画部門 第1位 ©第35回 日本カトリック映画賞受賞  
©2010年第84回キネマ旬報ベスト・テン文化映画 第2位 ©第28回 日本映画復興賞 日本映画復興奨励賞受賞  
©第16回 平和・協同ジャーナリスト基金賞 荒井なみ子賞受賞 ©あいち国際女性映画祭愛知県興行協会賞受賞

【太田直子】東京都出身。高校非常勤講師、書籍編集などの仕事を経て映像の仕事に携わる。2002年4月から2008年3月まで浦和商业高校定時制の撮影に通い、この映像をもとに2007年『テジセー〜1461日の記憶〜』（日本テレビ）を演出した。

「未来を生きる“こども”たちへ」私たちは何ができるのか？  
皆さんと一緒に考えたいと思います。  
未来のこどもたちが笑顔でいられるならば、  
きっと私たちも笑顔でいられるのではないのでしょうか？

## E 大丈夫。—小児科医・細谷亮太のコトバー—



朝顔の 花数死にし 子らの数(唸々)  
9/16(金) 16:45～上映終了後  
伊勢真一監督 × 細谷亮太先生 トークショー

40年来、小児がん治療の最前線で子どもたちの“いのち”と向き合い続けてきた、小児科医・聖路加国際病院副院長の細谷亮太。映画『風のかたち—小児がんと仲間たちの10年—』で1000時間にも及ぶ撮影された映像から、使用されなかった中にあった細谷先生への20時間程の「いのち」を見つめたコトバたち。長い間小児がん治療の最前線に立ち続けてきた医師・細谷亮太の10年間の発言記録と、俳人・細谷唸々として、「いのち」のことを詠み続けた作品の数々を紹介する。

監督・演出：伊勢真一／出演：細谷亮太 ほか／2011／日本／85分／配給：いせFILM

【伊勢真一】  
東京都出身。『奈緒ちゃん』、『びぐれっと』、『ありがとう』の奈緒ちゃん三部作や『風のかたち』など多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデューサーも積極的に手掛けている。日常をふんわりと映し出す映像の中に、生きることの素晴らしさが込められた独特の作風で知られる。

【細谷亮太】  
山形県出身。聖路加国際病院副院長として小児がんの子どもの治療に携わると同時に、子どもたちのキャンプ活動や執筆活動に取り組む。『いつもいいことさし』（暮らしの手帖社）、『医者が泣くということ』（角川書店）ほか著書多数。俳人・細谷唸々として、句集『桜桃』（東京四季出版）『二日』（ふらんす堂）がある。


## α 風のかたち —小児がんと仲間たちの10年—



「こどもは、死んじゃあいけない人たちだよね…」  
9/16(金) 限定上映  
①14:20～ ②19:15～

小児がんを体験した子どもたちに、自然との触れあいや、元患者のボランティアとの交流の機会を与えようというSMSサマーキャンプを、伊勢真一監督が10年間追い続けた。小児がん患者や体験者を、悲劇の主人公ではなく、“再生”のシンボルとして描いた本作は、単なる難病を扱ったドキュメンタリーという枠にとどまらず、“悲劇”ではなく“事実”を見つめ、ポジティブに病気を捉え直していこうという、閉塞的な現代の社会へのメッセージとなっている。

監督・演出：伊勢真一／出演：細谷亮太 小児がんと闘う仲間たち ほか／2009／日本／105分／配給：いせFILM  
©平成21年度文化庁映画賞 文化記録映画優秀賞受賞 ©第34回 日本カトリック映画賞受賞



開催期間中はロビーに募金箱を設置し、この映画特集の売り上げの一部と合わせて「ハタチ基金」に寄付させていただきます。  
ハタチ基金とは？…東日本大震災の被災孤児、及び被災地の子どもへのケアに合わせ、学び・自立の機会を継続的に提供する基金です。